

2020 年第 45 週(11 月 2 日~11 月 8 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター（名古屋市衛生研究所疫学情報部）

2020年（令和2年）11月11日作成

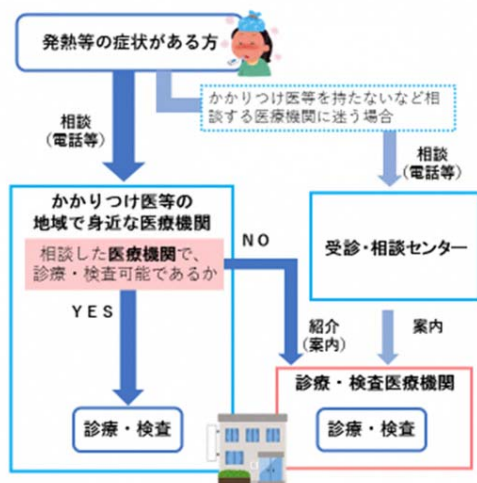
<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

◆新型コロナウイルス感染症について

- 11月10日現在までに、名古屋市内では3765人（※）の新型コロナウイルス感染者（再陽性患者件数を含む）が確認され、市内における新型コロナウイルスに関連した死亡者は62人となりました。一週間当たりの新規陽性者数が増加しています。
- 市民の皆様におかれては、風邪や季節性インフルエンザ対策と同様にお一人お一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。マスクの着用や手洗いの徹底など感染症対策に努めていただくようお願いいたします。
- 集団感染の共通点は、特に、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。
- 発熱等の症状がある場合には、まずは、かかりつけ医等の地域の医療機関に電話等でご相談ください。事前に相談なく、直接受診することは避けてください。かかりつけ医をもたないなど、相談先に迷う場合は、「受診・相談センター（コールセンター）」にご相談ください。
- 「受診・相談センター（コールセンター）」の詳細については、下記の本市公式ウェブサイト等をご覧ください。

発熱等の症状がある場合の相談・受診方法（名古屋市）

<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000133973.html>



(出典：名古屋市HPより)

受診・相談センター（コールセンター）

次の場合等にはご相談ください。

- ▶発熱等の症状がある方の受診に関する相談
受診に迷う、どの医療機関に受診すればよいかわからないとき 等
- ▶一般的な相談
新型コロナウイルス感染症の症状、検査、感染予防法、
消毒方法 等
- ▶接触アプリ「COCOA」に関する相談
陽性者との接触が確認されたとき 等

○受付時間 24時間体制

○電話番号 052-249-3703

○メールアドレス nagoya_iyushinsoudan@medi-staffsup.com

OFAX番号 052-265-2349

聴覚に障害がある方をはじめ、電話でのご相談が難しい方はメールまたはFAXをご利用ください。

- 新型コロナウイルス感染症の詳細な情報については下記リンク等をご覧ください。
新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
新型コロナウイルスに関連する肺炎について（名古屋市）
<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000124556.html>
- 名古屋市及び愛知県における新型コロナウイルスの発生状況の詳細については下記リンクより記者発表資料をご覧ください。
市内の新型コロナウイルス発生状況（名古屋市）
<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000126920.html>
愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/>
（※本市の新型コロナウイルス陽性者公表数に公表漏れ及び重複があり、11月10日に陽性者公表数の修正（追加・削除）が行われました。）

令和2年10月23日に開かれた新型コロナウイルス感染症対策分科会（第12回）で、**感染リスクが高まる「5つの場面」**が示されました。引き続き「3つの密（密閉、密集、密接）」が重なる状況を避けるとともに、新型コロナウイルス感染防止にご協力いただきますようお願いいたします。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をする事で、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼ラオクなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

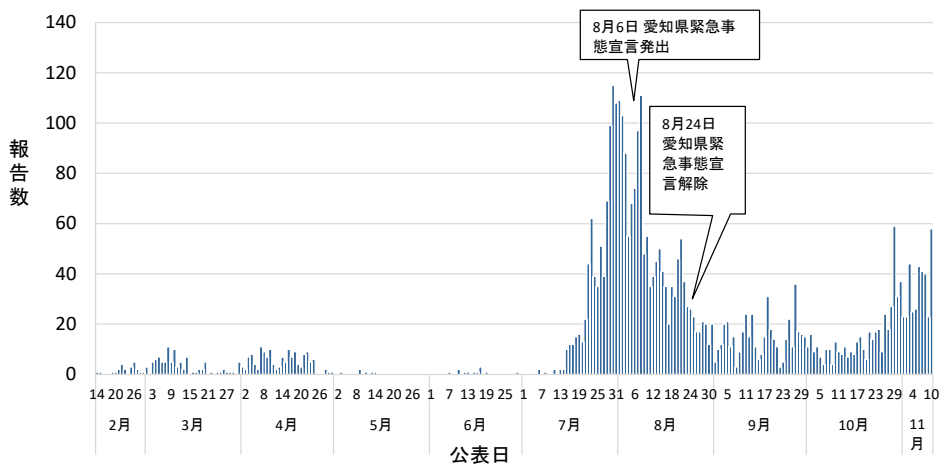
- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



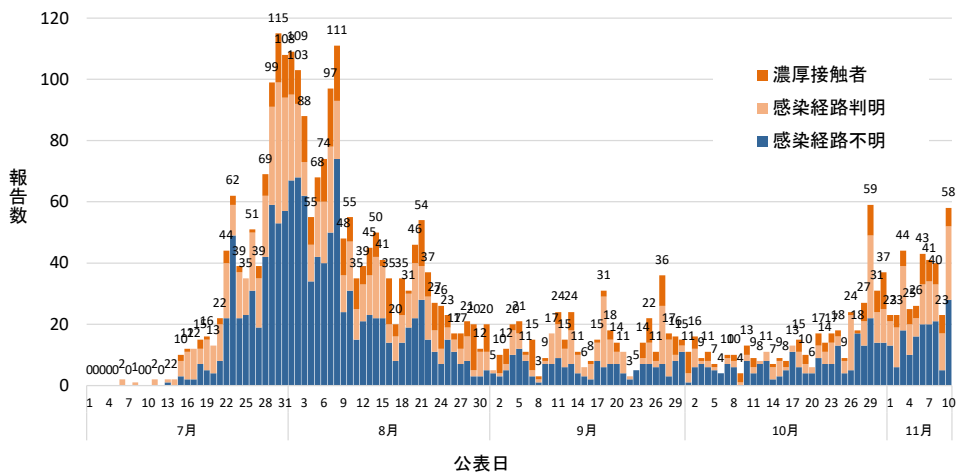
（出典：新型コロナウイルス感染症対策分科会（第12回） 分科会から政府への提言より）

〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数①（11月10日現在）〕

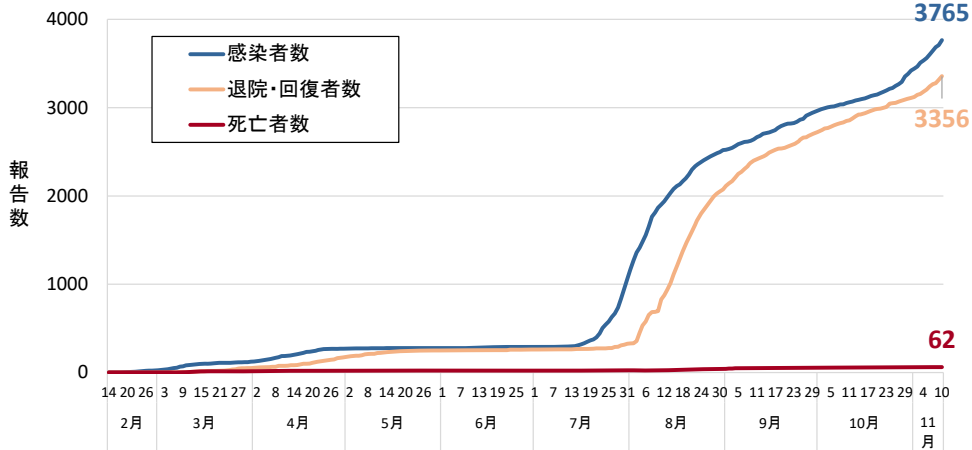
新型コロナウイルス感染者数(名古屋市 n=3765)



感染者数及び感染経路(名古屋市:7/1~11/10)



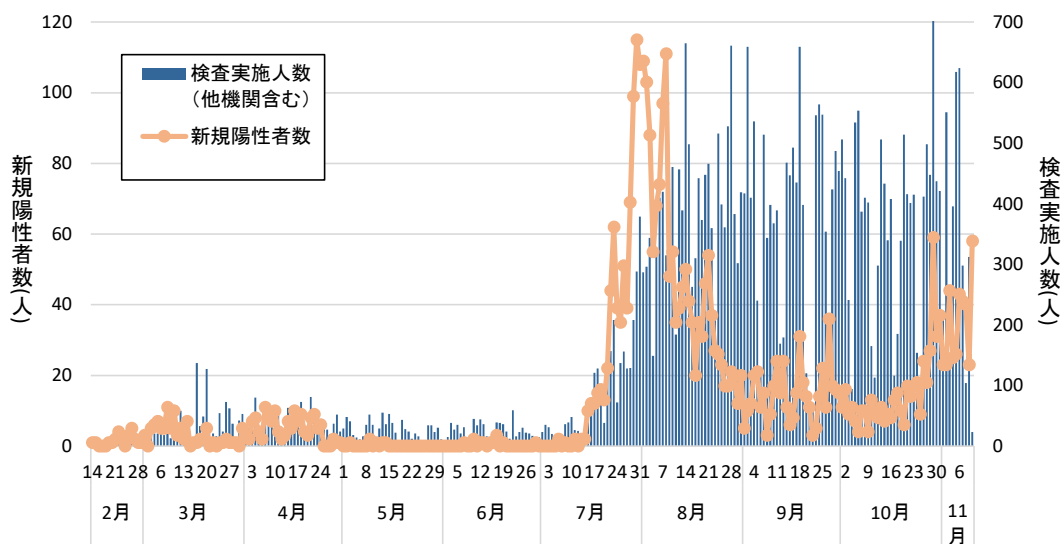
感染者数、退院・回復者数、死亡者数の累計(名古屋市)



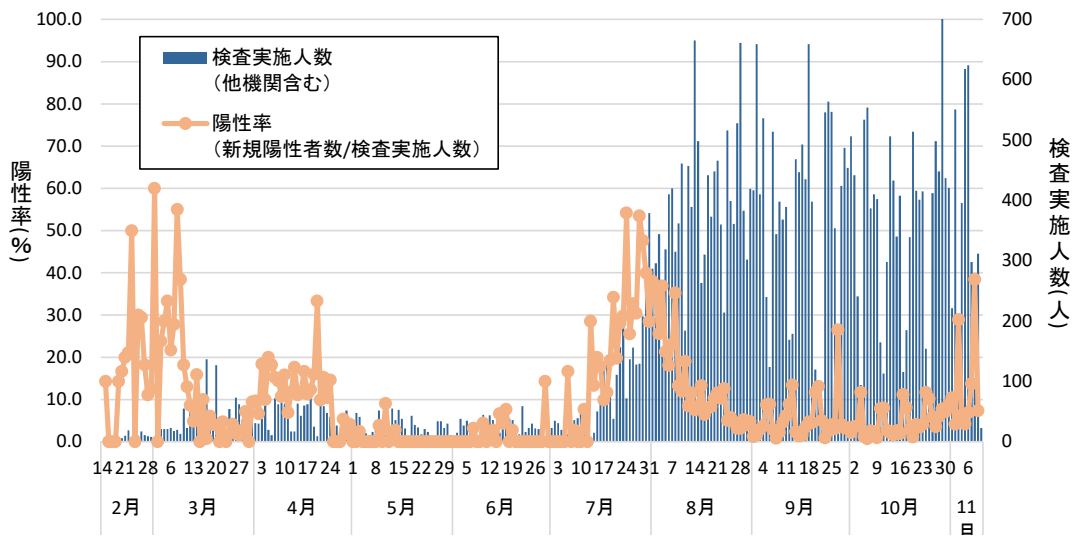
〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数②（11月10日現在）〕

掲載データは、本市公式ウェブサイト「市内の新型コロナウイルス発生状況」の「名古屋市の陽性患者・検査実施人数データ（2020年11月10日現在）」を使用しています。検査実施人数は、本市の疑い患者としてPCR検査等を行ったものを掲載しており、名古屋市衛生研究所、名古屋市PCR検査所での実施数のほか、発表時点で本市が把握している他機関の検査数も含まれます。（陽性患者の陰性化確認のための検査は除く。）また、令和2年8月10日以降は、新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により把握した件数等についても掲載しています。掲載している数値については速報値であり、後日修正されることがあります。

新規陽性者数と検査実施人数（名古屋市）

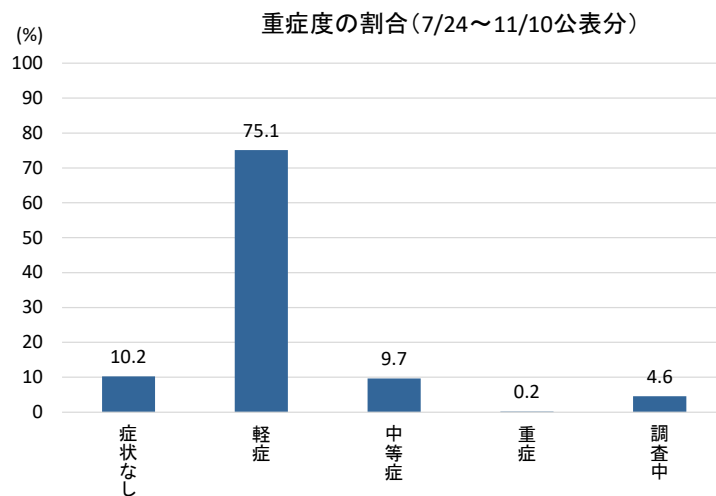
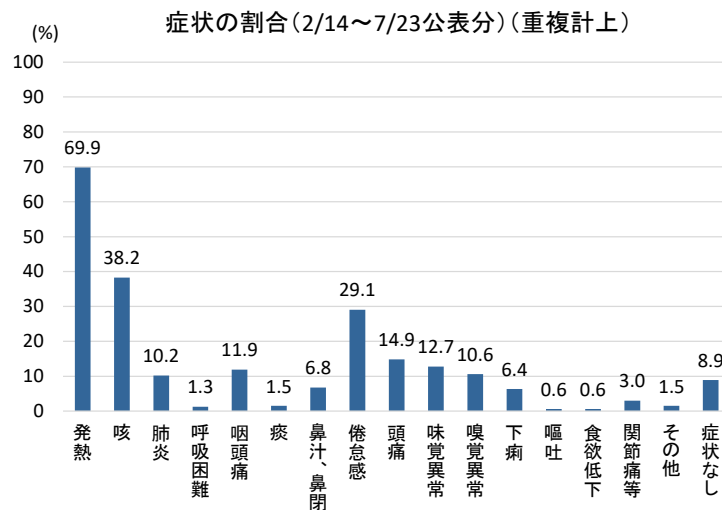
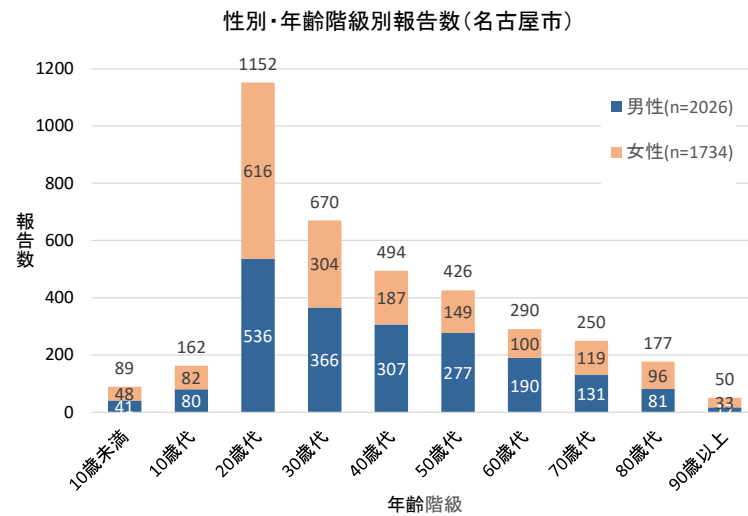


陽性率と検査実施人数（名古屋市）

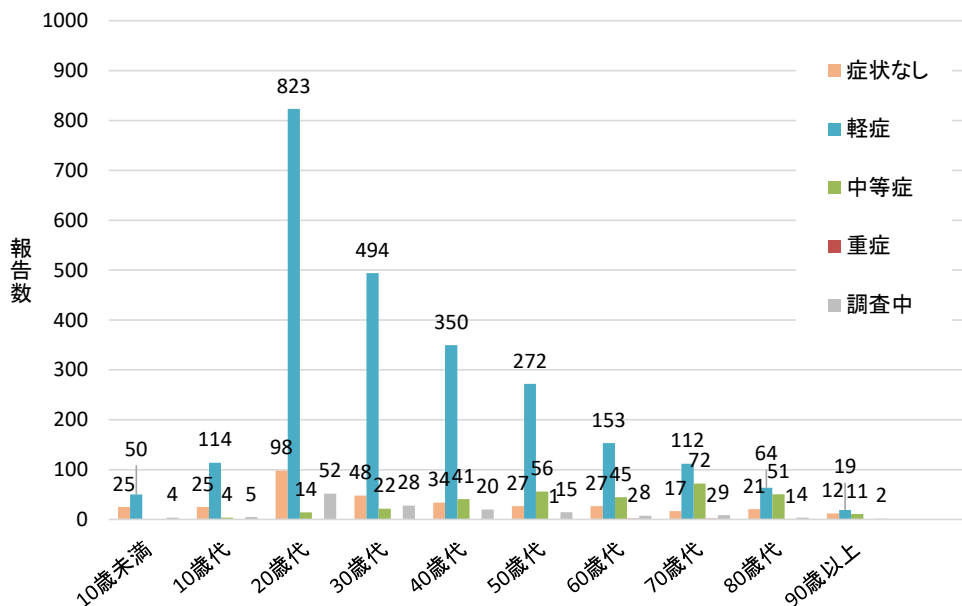


〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数③（11月10日現在）〕

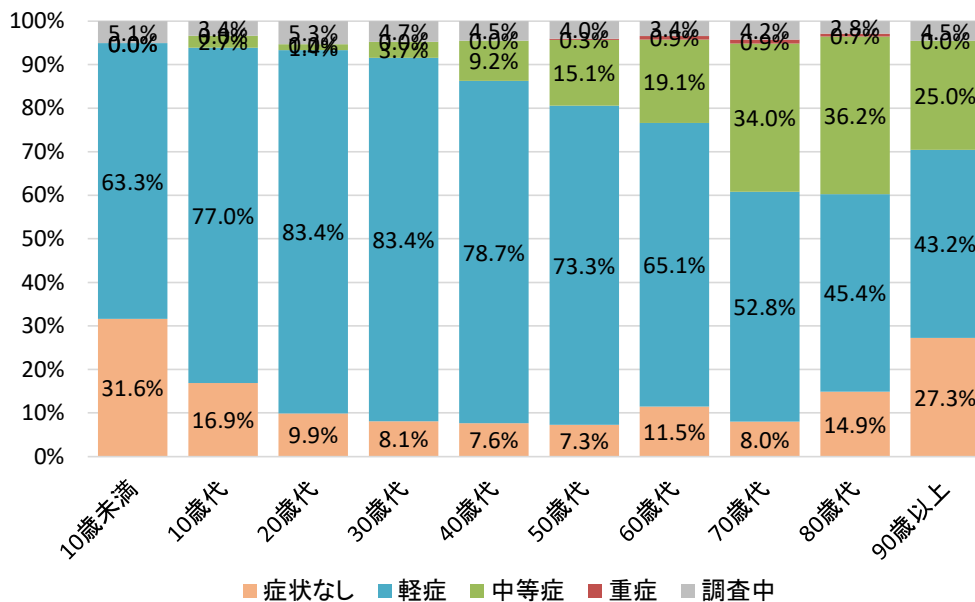
本市記者発表資料より集計。年齢非公表及び調査中の患者を除く。患者の重症度は公表時時点。



重症度・年齢階級別感染者数(7/24～11/10公表分)

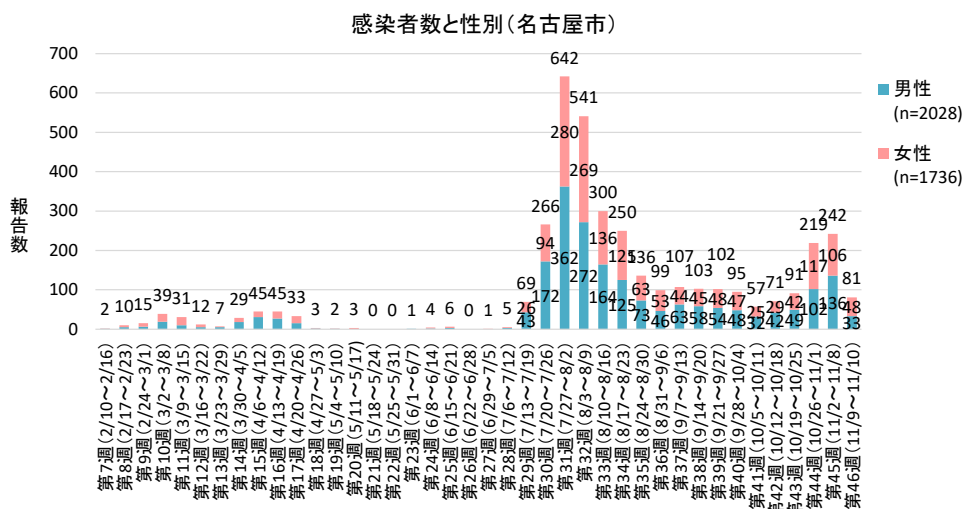
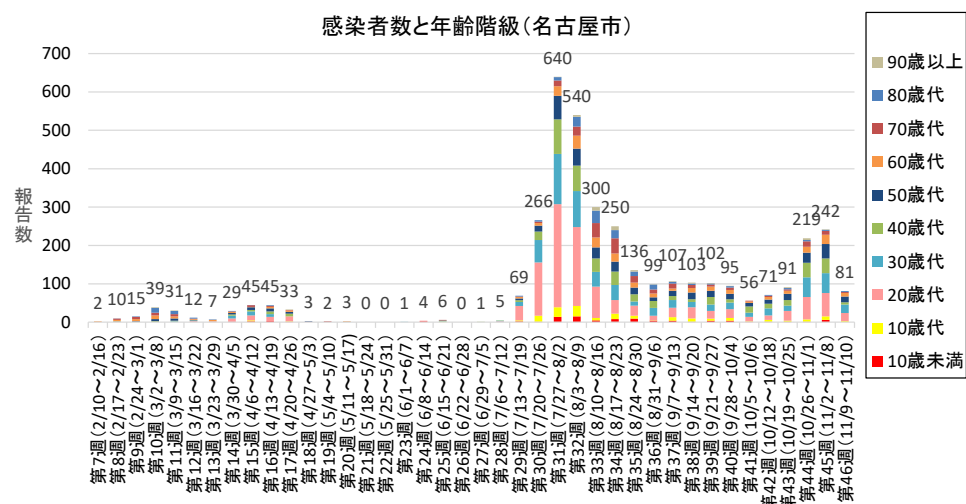
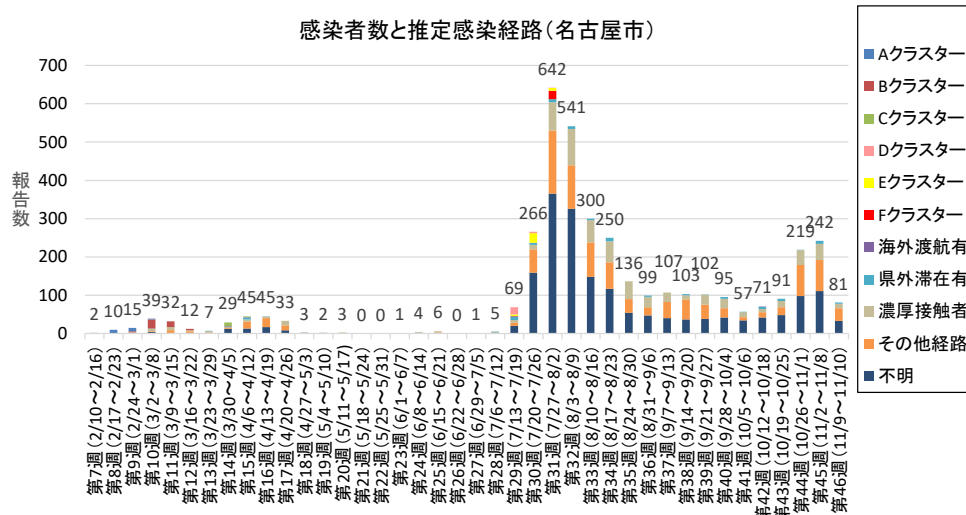


重症度・年齢階級別の割合(7/24～11/10公表分)

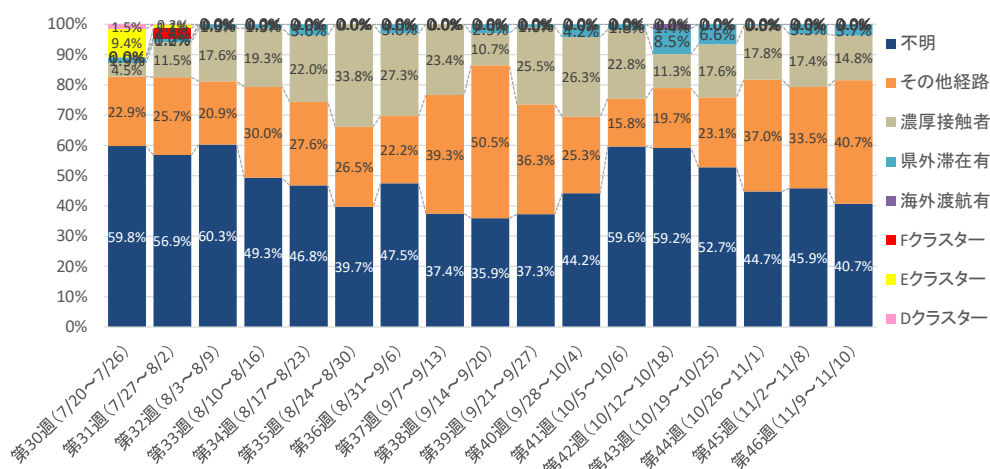


〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数④（11月10日現在）〕

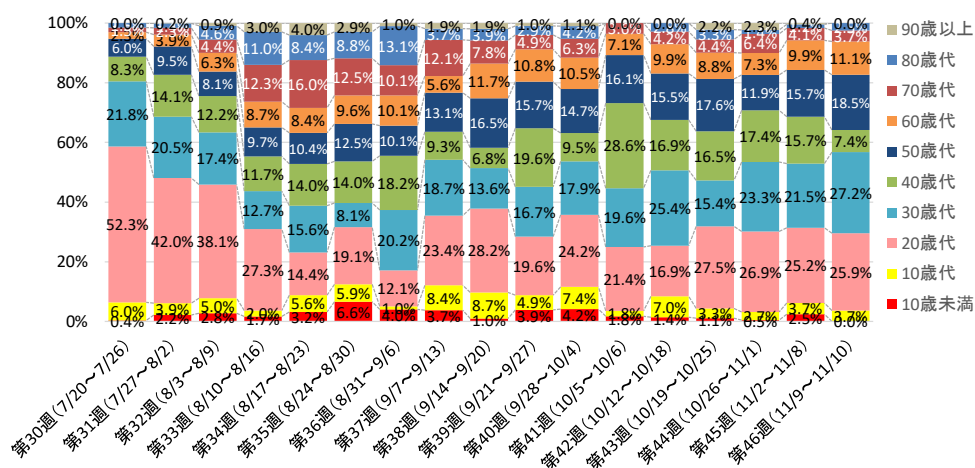
推定感染経路は本市記者発表資料等を参考に当所にて推定したもの。報告数は公表日の患者数を集計。
年齢階級は非公表及び調査中の患者を除く。なお、その後の訂正などにより変更される場合があります。



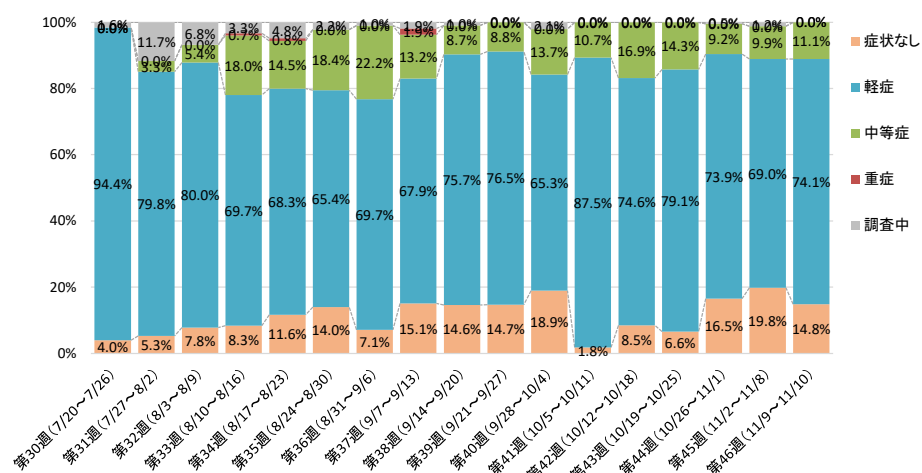
各週における推定感染経路の割合



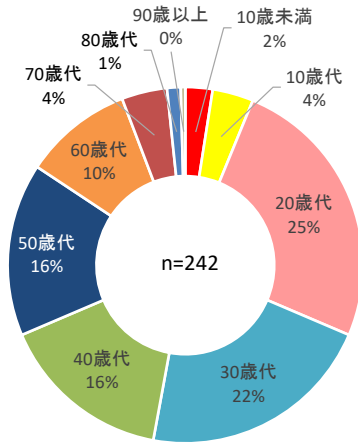
各週における感染者の年齢階級の割合



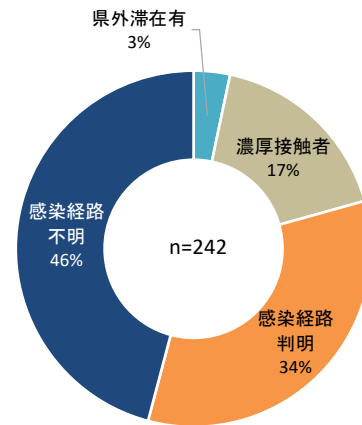
各週における感染者の重症度の割合



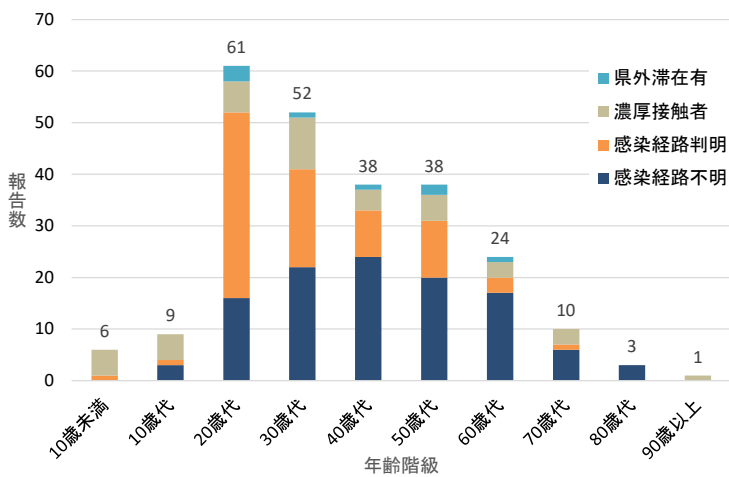
年齢階級別感染者数の割合(第45週:11/2～11/8)



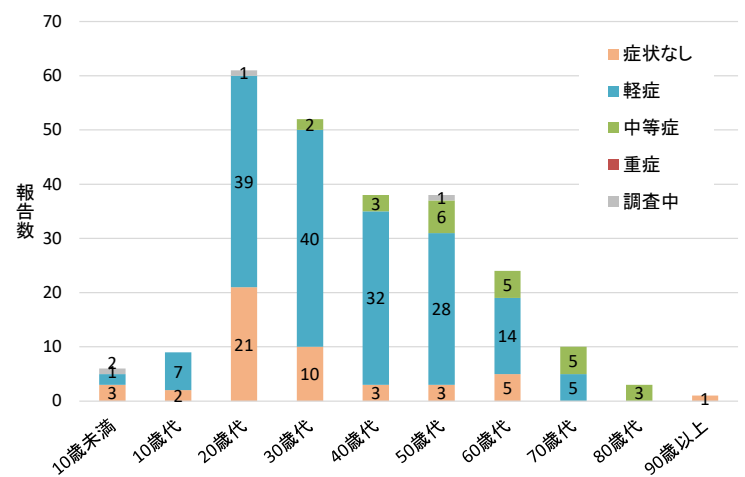
推定感染経路別感染者数の割合(第45週:11/2～11/8)



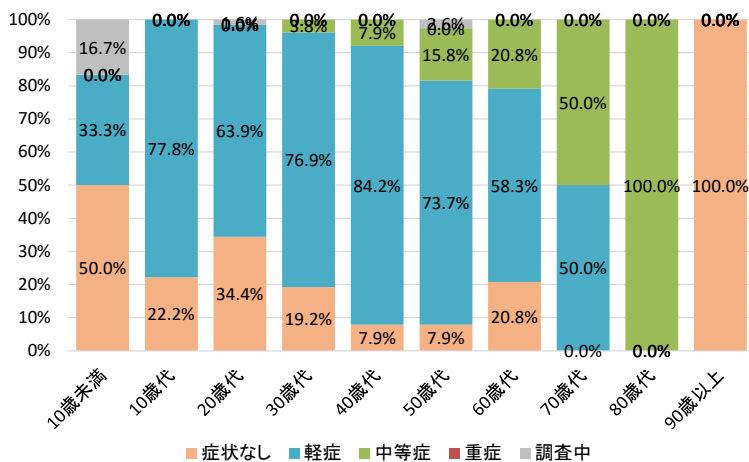
年齢階級と推定感染経路(第45週:11/2～11/8 n=242)



重症度・年齢階級別感染者数(第45週:11/2～11/8)

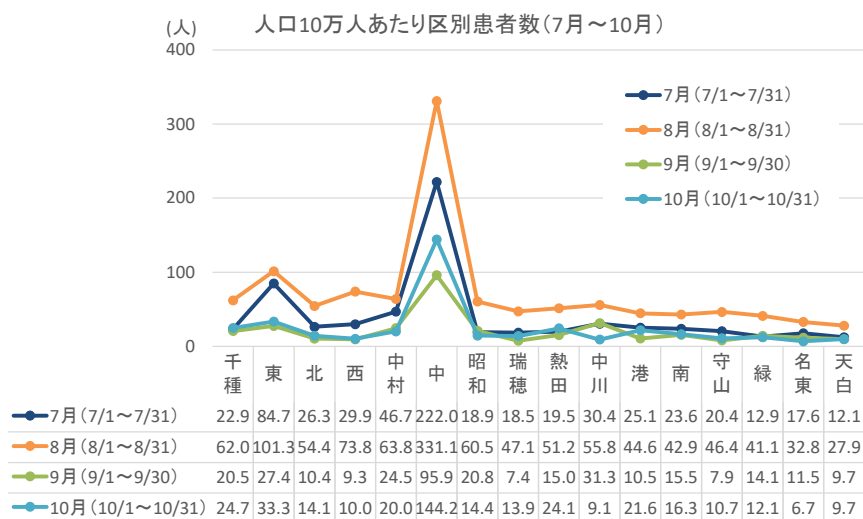
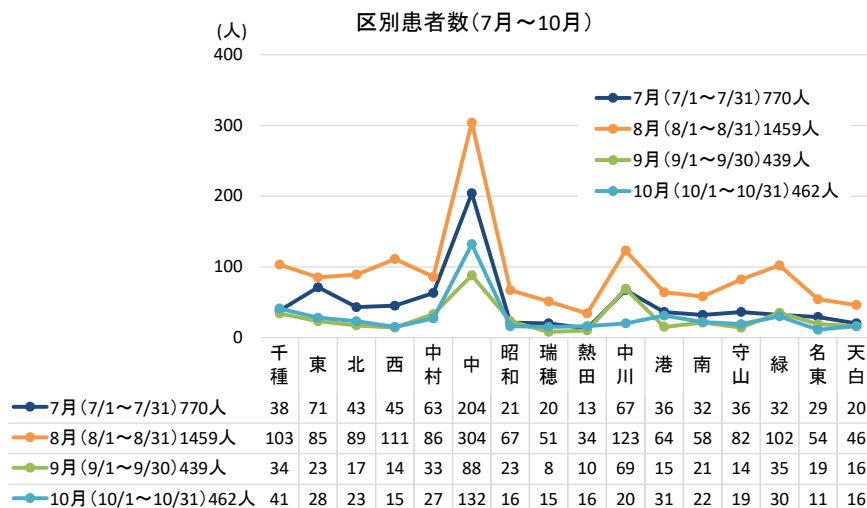


重症度・年齢階級別の割合(第45週:11/2～11/8公表分)



〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数⑤〕

掲載データは、本市新型コロナウイルス感染症対策特設サイト「7月～10月の区別新規患者数累計（令和2年7月31日、8月31日、9月30日及び10月31日時点）」を使用しています。区別患者数は、発表時時点で把握している患者居住区であり、実際の感染エリアであるとは限りません。また、区別患者数については、1週間あたりの発生状況等を踏まえ、プライバシー保護等の観点から掲載を見送る場合がありますが、その後の患者発生動向等を踏まえ、適宜掲載する予定です。なお、人口10万人あたりの患者数には名古屋市総務局公表による令和2年7月1日、8月1日、9月1日及び10月1日現在の推計人口を使用しています。

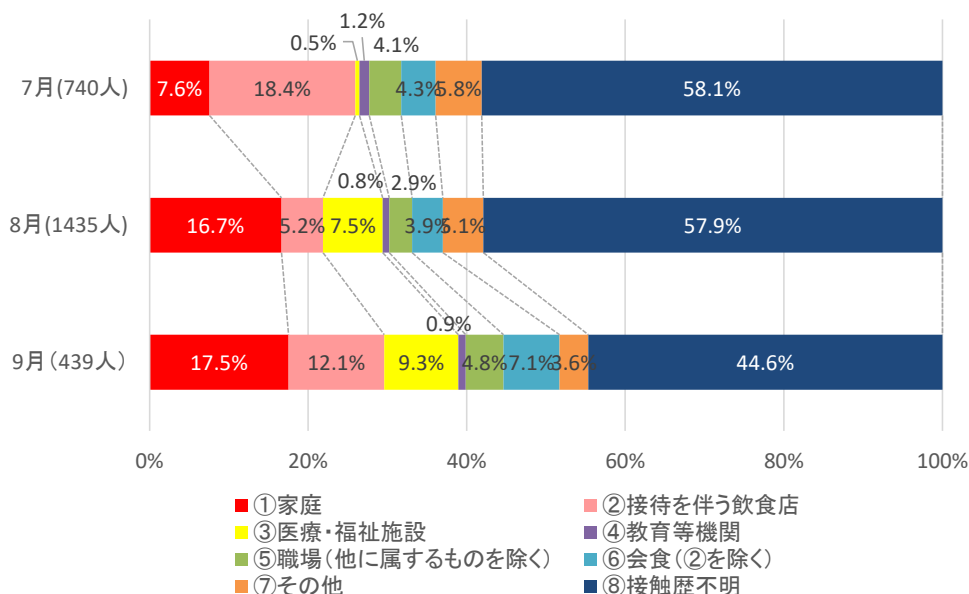


〔名古屋市における新型コロナウイルス感染症報告数⑥〕

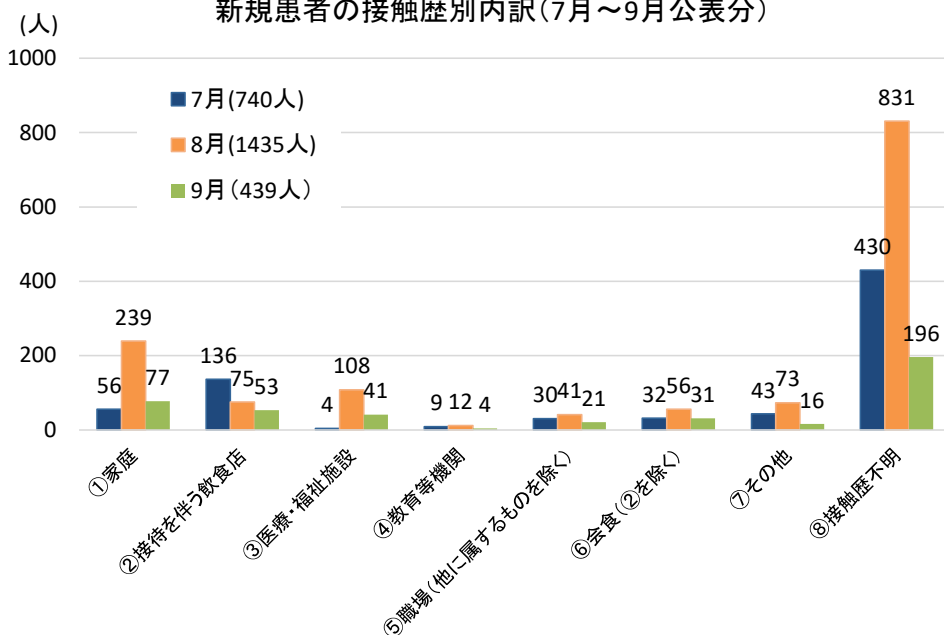
掲載データは、本市記者発表資料「新規患者の接触歴別内訳（7月、8月、9月公表分）」を使用しています。この内訳は、本市公表事例（7月1日～9月30日の期間に公表の分）について、接触歴ごとに分類、集計したものです。なお、11月10日に公表された新型コロナウイルス陽性者公表数の漏れ及び重複分は含まれていません。

接触歴の割合の比較では、9月は8月に続き「①家庭」での接触が最多を占め、また、8月より「②接待を伴う飲食店」、「③医療・福祉施設」及び「⑥会食（②を除く）」での接触歴が増加しています。

新規患者の接触歴別内訳の割合（7月～9月公表分）



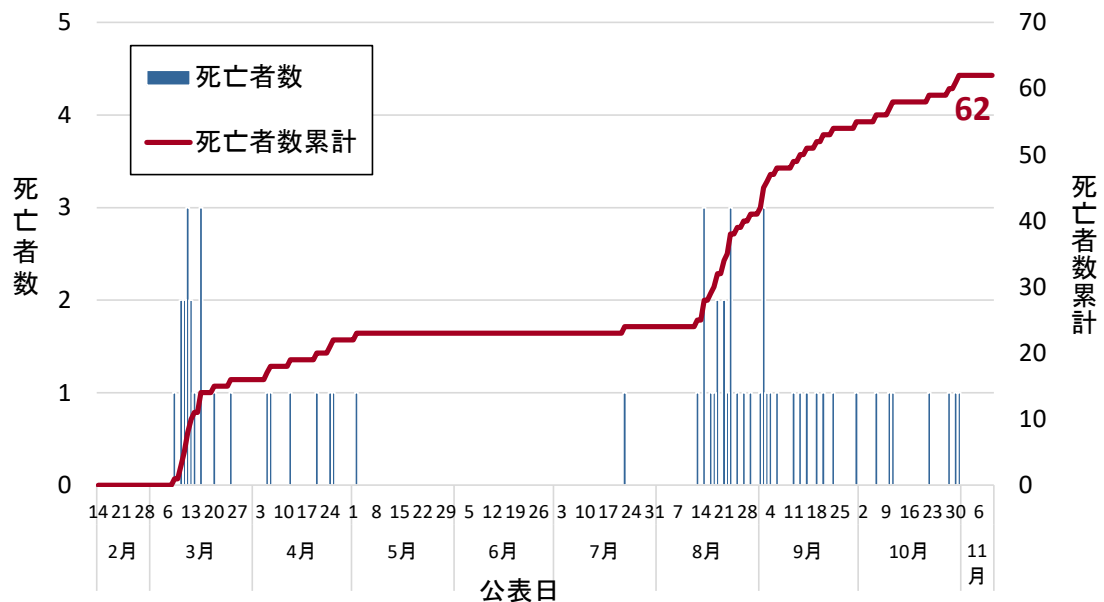
新規患者の接触歴別内訳（7月～9月公表分）



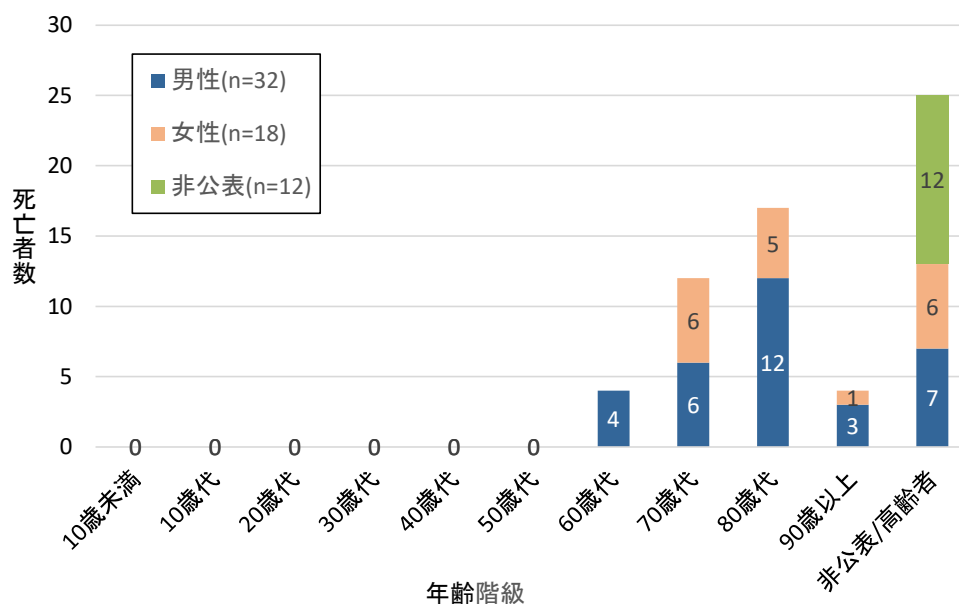
〔名古屋市における新型コロナウイルスに関連した死亡者（11月10日現在）〕

11月10日現在、新型コロナウイルスに関連した死亡者は名古屋市内62人となっています。

新型コロナウイルス死亡者数(名古屋市 n=62)



性別・年齢階級別死亡者数(名古屋市)



◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- 水痘が前週の 2.8 倍になりました。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2020 年第 45 週	2 類	結核	5	男性、77 歳、結核性心膜炎 男性、87 歳、肺結核 男性、66 歳、肺結核 男性、91 歳、肺結核 男性、73 歳、肺結核
2020 年第 45 週	指定	新型コロナウイルス 感染症	242	下に別記載
2020 年第 45 週	3 類	腸管出血性大腸菌感 染症	1	男性、10 歳、感染地域：不明、血清型・毒性型：不明 V T 1
2020 年第 45 週	5 類	梅毒	1	男性、30 歳、早期顕症梅毒 1 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔新型コロナウイルス感染症〕

重症度（縦） 年代（横）	10	20	30	40	50	60	70	80	90	10 歳 未満	総計
症状なし	2	19	10	2	4	4	0	0	1	1	43
軽症	7	39	42	32	29	17	5	1	0	2	174
中等症	0	0	3	3	5	5	5	3	0	0	24
調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総計	9	58	55	37	38	26	10	4	1	4	242

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2020 年第 44 週	2 類	結核	2	男性、22 歳、左頸部リンパ節結核 女性、37 歳、脾結核
2020 年第 44 週	5 類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	女性、73 歳、菌検出検体：血液
2020 年第 42 週	5 類	梅毒	1	男性、37 歳、早期顕症梅毒 2 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2020 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0
2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	412 (85) [0] [1] 【2】
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
指定感染症	新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和 2 年 1 月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）	3705
3 類感染症	コレラ	0

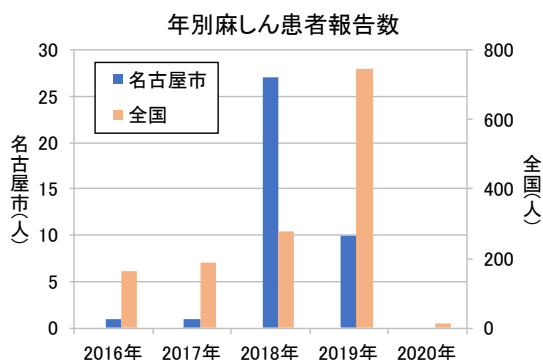
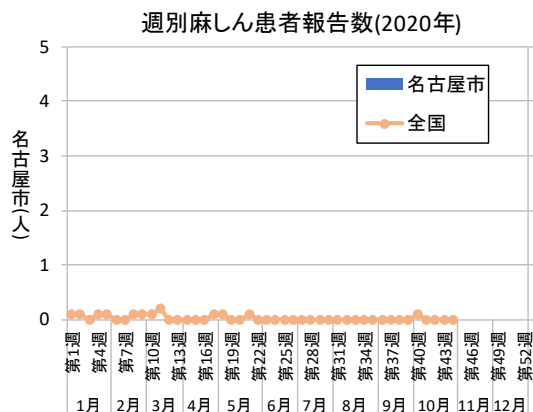
NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

3 類感染症	細菌性赤痢	0
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	37
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	デング熱	3
4 類感染症	A 型肝炎	3
4 類感染症	E 型肝炎	3
4 類感染症	レジオネラ症	27
5 類感染症	アメーバ赤痢	15
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	41
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	7
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	48（41）
5 類感染症	ジアルジア症	1
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	11
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	38
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	9
5 類感染症	梅毒	140（45）
5 類感染症	播種性クリプトコックス症	3
5 類感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1
5 類感染症	百日咳	47
5 類感染症	風しん	7
5 類感染症	ウイルス性肝炎	3
5 類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	2

累計は 2020 年第 1 週からの診断週による累計、（ ）内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔名古屋市の麻しん報告数：2020年11月11日作成〕



週別麻しん患者報告数(2020年)

名古屋市									第45週(11月8日)までの合計(人)

表は患者報告のあった週のみ掲載し、報告が0人の週については省略

年別麻しん患者報告数

麻しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
名古屋市	75	11	6	19	5	1	20	0	1	1	27	10	0※1
愛知県	197	29	32	32	39	25	46	0	5	1	37	41	2※2
全国	11013	732	447	439	283	229	462	35	165	186	279	744※3	13※2

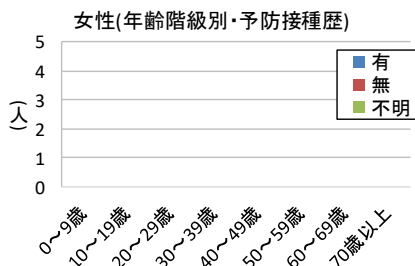
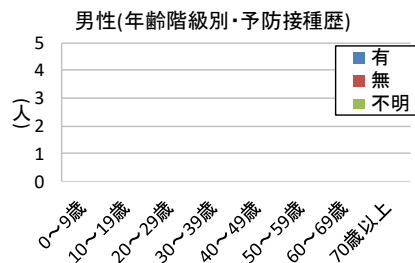
※1 第45週(11月8日)まで

※2 第44週(11月1日)まで

※3 報告数は速報値

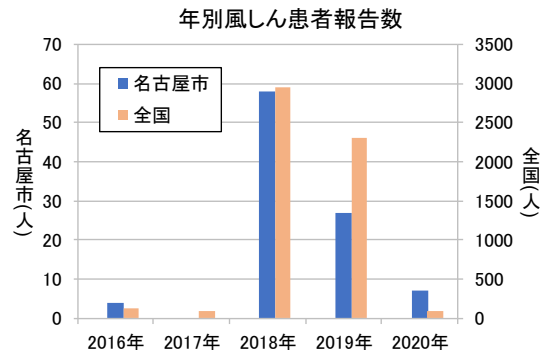
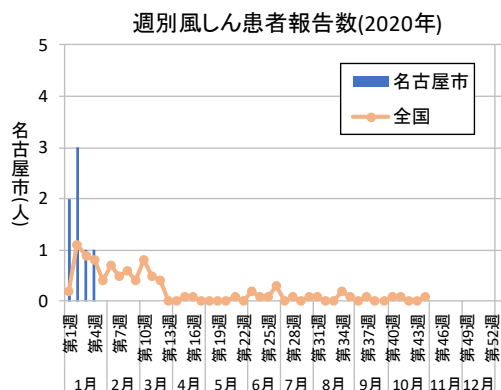
麻しん患者の性別・年齢階級別・予防接種歴(2020年名古屋市)

		予防接種歴			総計(人)
		有	無	不明	
男性	0～9歳				0
	10～19歳				0
	20～29歳				0
	30～39歳				0
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)				0
女性	0～9歳				0
	10～19歳				0
	20～29歳				0
	30～39歳				0
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
	計(人)	0	0	0	0
総計(人)		0	0	0	0



(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔名古屋市の風しん報告数：2020年11月11日作成〕



週別風しん患者報告数(2020年)

名古屋市	第1週 (12/30～ 1/5)	第2週 (1/6～ 1/12)	第3週 (1/13～ 1/19)	第4週 (1/20～ 1/26)					第45週(11月8日)まで の合計(人)
	2	3	1	1					7

表は患者報告のあった週のみ掲載し、報告が0人の週については省略

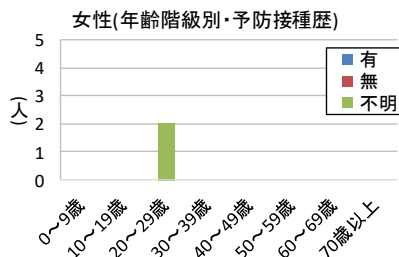
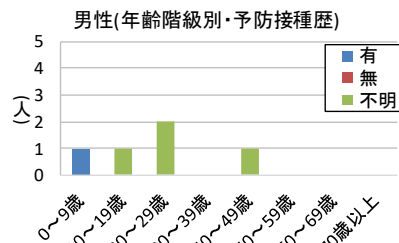
年別風しん患者報告数

風しん	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
名古屋市	1	1	0	7	38	191	7	2	4	0	58	27	7※1
愛知県	3	10	3	13	97	375	22	13	20	3	118	59	8※2
全国	303	147	87	378	2386	14344	319	163	126	91	2946	2306※3	93※2

※1 第45週(11月8日)まで ※2 第44週(11月1日)まで ※3 報告数は速報値

風しん患者の性別・年齢階級別・予防接種歴(2020年名古屋市)

		予防接種歴			
		有	無	不明	総計(人)
男性	0～9歳	1			1
	10～19歳			1	1
	20～29歳			2	2
	30～39歳				0
	40～49歳			1	1
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
計(人)		1	0	4	5
女性	0～9歳				0
	10～19歳				0
	20～29歳			2	2
	30～39歳				0
	40～49歳				0
	50～59歳				0
	60～69歳				0
	70歳以上				0
計(人)		0	0	2	2
総計(人)		1	0	6	7



風しん患者情報(2020年名古屋市)

No	診断年月日	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	2020.1.4	20歳代	男	不明	国内(愛知県 名古屋市)
2	2020.1.5	20歳代	男	不明	国内(愛知県 名古屋市)
3	2020.1.8	20歳代	女	不明	国内(愛知県 名古屋市)
4	2020.1.9	5歳	男	有	国内(愛知県)
5	2020.1.11	10歳代	男	不明	国内(愛知県 名古屋市)
6	2020.1.14	20歳代	女	不明	国内(愛知県 名古屋市)
7	2020.1.23	40歳代	男	不明	国内(愛知県 名古屋市)

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

カンピロバクター腸炎：2 名	定点医療機関（千種区）
アデノウイルス咽頭炎：2 歳男児　＜感染性胃腸炎の内訳＞カンピロバクター：1 歳男児	定点医療機関（千種区）

◆2020 年第 45 週 患者報告数（疾病別）、定点あたり患者報告数（疾病別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2020年第45週（2020年11月2日～11月8日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
★ インフルエンザ																	0		0.0
○ RSウイルス感染症				1													1		0.0
○ 咽頭結膜熱		2		5						3					1		11	1.0	0.7
○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3			2	1					1	1	3		3	1	1	16	0.6	0.3
○ 感染性胃腸炎	10		5	10	7	1	2			3	5	2	3	7	5	10	70	1.0	0.4
○ 水痘	6				1	2				3				1	1		14	2.8	2.2
○ 手足口病																	0	0.0	0.0
○ 伝染性紅斑																	0	0.0	0.0
○ 突発性発疹	3	2	3	8								1	3	4			24	1.0	2.3
○ ヘルパンギーナ												1					1	0.5	0.1
○ 流行性耳下腺炎																	0	0.0	0.0
△ 急性出血性結膜炎																	0		
△ 流行性角結膜炎								1									1	1.0	0.3
◇ 細菌性髄膜炎																	0		
◇ 無菌性髄膜炎			1														1		
◇ マイコプラズマ肺炎																	0		0.0
◇ クラミジア肺炎																	0		
◇ 感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0		
計	22	4	9	26	9	3	2	1	0	10	6	7	6	15	8	11	139		
																		*過去3年の同週の平均値との比	
★ インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○ 小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△ 眼科定点数	1		1	1	1			1	1	1		1		1	1	1	11		
◇ 基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2020年第45週（2020年11月2日～11月8日）

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ																	
RSウイルス感染症				0.3													0.0
咽頭結膜熱		0.5		1.3							0.8				0.3		0.2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.6			0.5	0.2					0.3	0.3	0.8		0.8	0.3	0.3	0.2
感染性胃腸炎	2.0		1.0	2.5	1.4	0.3	0.4			0.8	1.3	0.5	0.6	1.8	1.3	2.5	1.0
水痘	1.2				0.2	0.5				0.8				0.3	0.3		0.2
手足口病																	
伝染性紅斑																	
突発性発疹	0.6	0.5	0.6	2.0									0.3	0.6	1.0		0.3
ヘルパンギーナ													0.3				0.0
流行性耳下腺炎																	
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎								1.0									0.1

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2020年第45週(2020年11月2日～11月8日)

疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ																				

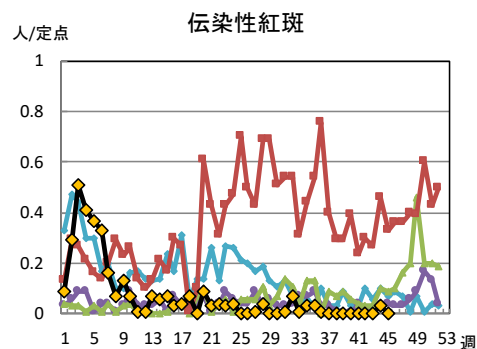
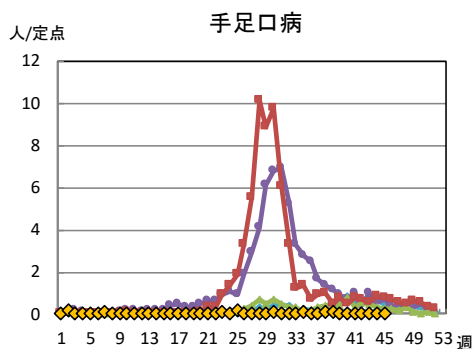
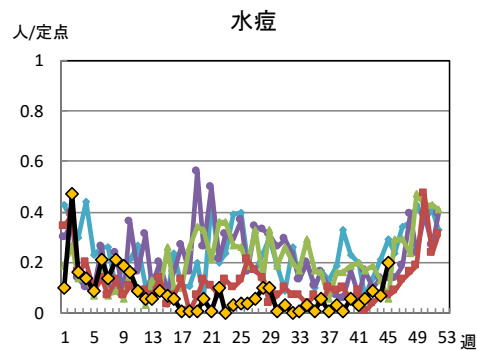
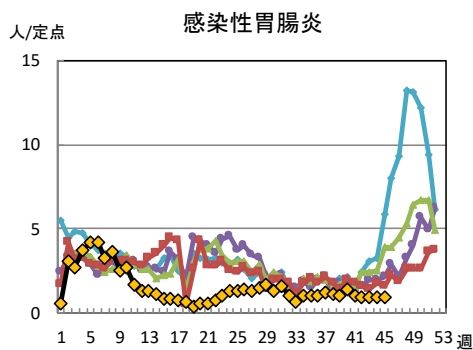
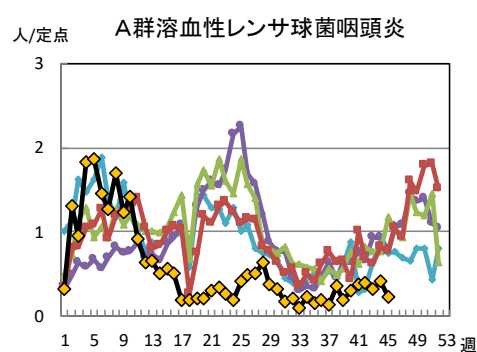
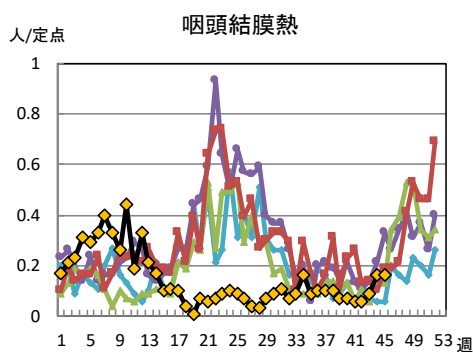
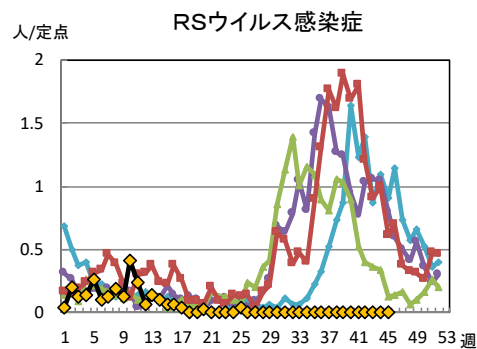
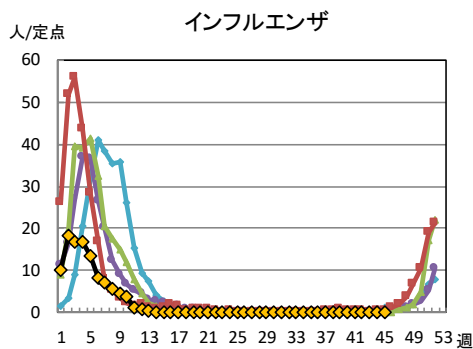
疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	1													
咽頭結膜熱			7	2	1	1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1	2	3	2		1	1	1	2	1	2
感染性胃腸炎		2	7	6	5	9	10	2	5	2		5	3	14
水痘						2	2	1	4	1	3	1		
手足口病														
伝染性紅斑														
突発性発しん	1	8	9	5	1									
ヘルパンギーナ			1											
流行性耳下腺炎														

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
急性出血性結膜炎																			
流行性角結膜炎													1						

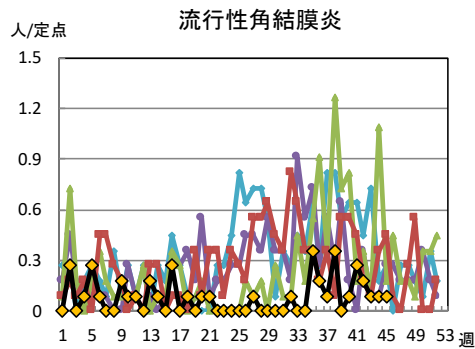
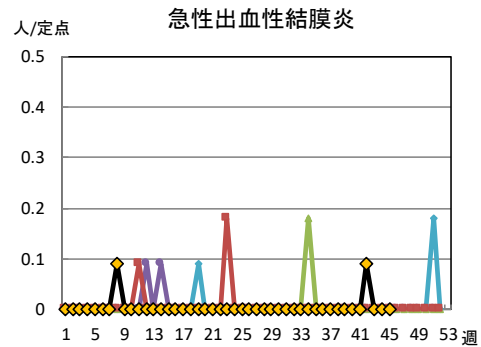
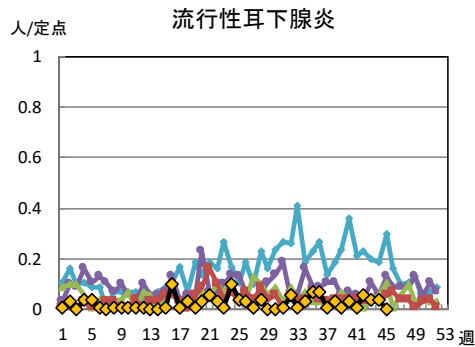
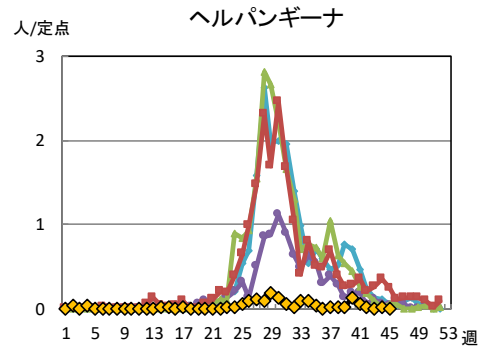
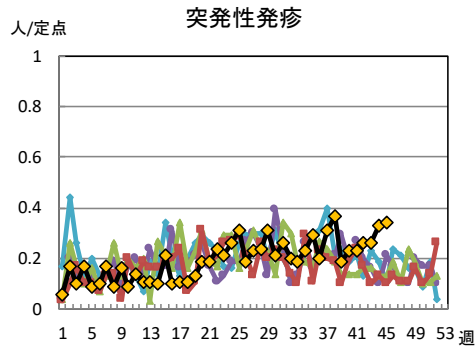
疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎						1										
マイコプラズマ肺炎																
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2020年第45週まで

2016年 2017年 2018年
 2019年 2020年



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2020年第45週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2020年10月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二赤十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1. 基幹定点報告、区別患者報告数(名古屋市)

2020年10月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症				0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	0	0	0	0

表2. 基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2020年10月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症											0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2020年10月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別でみると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマの順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性186人、女性は45人でした。（表2、図1参照）

2020年10月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症は15歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は20歳から24歳および30歳以上の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは20歳から54歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は15歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から34歳および55歳以上の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は15歳から34歳および45歳から54歳の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは30歳から34歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は20歳から24歳および50歳から54歳の年齢階級で報告がありました（表2、図2参照）。

表1. 性感染症区別患者報告数(名古屋市)

2020年10月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	5		20	3	7	33	12			20	5			4	3	1	113
性器ヘルペスウイルス感染症			7	1	3	8	1	1			6				3	3	33
尖圭コンジローマ			5		1	3				6						1	16
淋菌感染症	6		10		1	18	7			20	1			3	1	2	69
計	11		42	4	12	62	20	1		46	12			7	7	7	231

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2020年10月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		5	30	12	18	10	4	1	4	4	88
	女性		4	14	4	2					1	25
性器ヘルペスウイルス感染症	男性			6		2	5	2	2	1	1	19
	女性		1	1	6	3			1	2		14
尖圭コンジローマ	男性			2	4	1	2	3	1	2		15
	女性					1						1
淋菌感染症	男性		3	10	13	15	9	6	4	2	2	64
	女性			4						1		5
計	男性		8	48	29	36	26	15	8	9	7	186
	女性		5	19	10	6			1	3	1	45

図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2020年10月)

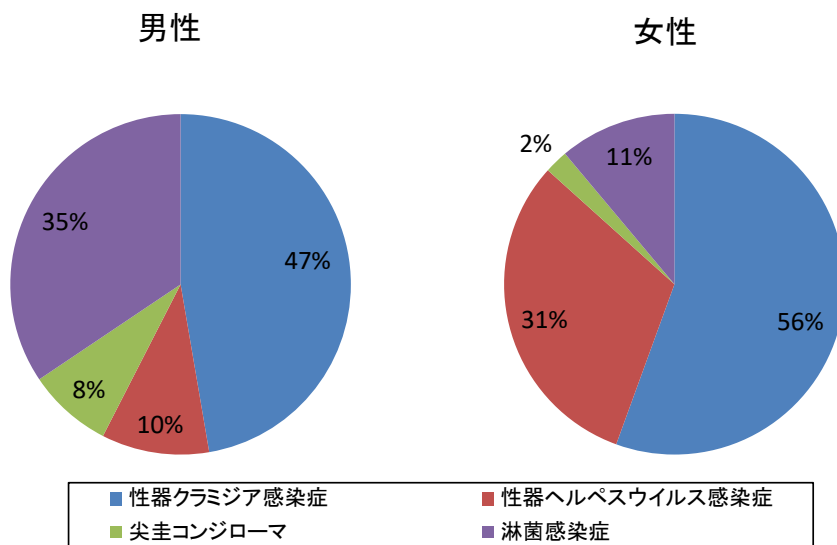


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2020年10月)

